

震災アーカイブの意義について —みちのく震録伝の経験から—

災害文化アーカイブ研究分野
柴山明寛

令和6年能登半島地震のデマ情報

X(旧:Twitter)の一例(映像とともに配信, 動画が反転, スマホサイズに変更)

※1月1日に多数から同様な内容でツイート

「津波到達になった瞬間NHKのアナウンサーがすごい怒鳴ってる! 危機感の伝わってくるアナウンスなので北陸新潟能登半島の方逃げてください」



宮古市災害資料アーカイブ みよこあす
Miyako City Disaster Archive

Foreign Language 文字サイズ 縮小 拡大 拡大 拡大

宮古市災害資料アーカイブとは | 災害年表 | 東日本大震災 | 防災学習 | 防災と観光 | 利用ガイド

宮古市とは >

フリーワード検索

災害種類からさがす +

災害名からさがす +

地域からさがす +

年代からさがす +

地図からさがす >

詳細検索 >

東日本大震災津波

災害種類	地震・津波災害
災害名	2011(平成23)東日本大震災
年代	平成(1989年~2019年)
分類(カテゴリ)	被災状況 > 港, 被災状況 > まちなか, 被災状況 > その他
上位タイトル	東日本大震災津波
タイトル	東日本大震災津波
キーワード	宮古市役所, 津波, 第一波, 黒水, 堤防, 濁流, 破壊, 漁船
コンテンツ番号	11_1-001_0016_0001
二次利用可否	可
作成者・撮影者	宮古市
提供者	宮古市
作成日・撮影日	2011-03-11

ダウンロード ↓

一括ダウンロードに追加

出典:いわて震災津波アーカイブ／提供者:宮古市教育委員会 文化課(市史編纂室)

令和6年能登半島地震のデマ情報

今後も災害時に多くのデマ情報が発信される可能性はある。
また、デマ情報(流言)によって、被災者及び支援側も混乱を極める可能性がある。



日本ファクトチェックセンター(JFC, <https://factcheckcenter.jp/>)
などの団体があるものの限界がある。



ファクトチェックの支援としても自然災害デジタルアーカイブで
収集されたコンテンツを用いて、類似分析が可能なプラット
フォームの構築が必要と考える。

令和6年能登半島地震の支援の可能性



国立国会図書館「ひなぎく」

自然災害デジタルアーカイブでは、様々な災害時対応の情報が掲載されている。



国立国会図書館の「ひなぎく」などを活用して、東日本大震災の事例や熊本地震の事例などの検索が可能



ただし、

- ・通信状況が悪い中でのデジタルアーカイブの利用は困難→「軽量化の必要」
- ・ノウハウ集ではないので、目的のものが見つかりづらい→「編纂作業が必要」
- ・専門用語などが多様されている場合もあるので、一般には使いづらい。
例えば、「道路啓開」などである。
- ・現状には合わないものも多数存在する

東日本大震災アーカイブの存続の問題

震災アーカイブ、存続が岐路に 閉鎖・停止続く、維持費に課題
(共同通信：2023年12月2日配信) ※公開年を追記

閉鎖済み		茨城県(2017年3月公開)
公開を停止		青森県八戸市(2014年4月公開) 岩手県久慈市(2015年4月公開)
閉鎖予定		宮城県気仙沼市(2014年1月公開)
公開継続	存続に不安	岩手県宮古市(2023年3月公開) 岩手県大槌町(2017年8月公開) 宮城県(2016年5月公開) 宮城県東松島市(2013年1月公開) 宮城県多賀城市(2014年3月公開) 仙台メディアテーク(2011年5月公開) 福島県いわき市(2020年7月)
	不安はない	岩手県(2017年3月公開) 宮城県名取市(2012年7月公開) 宮城県仙台市(2012年12月公開) 福島県郡山市(2016年3月公開)

東日本大震災アーカイブの存続の問題

【現在発生している問題】

- ・ハードウェアの寿命, ウェブサイトの寿命などが起因して閉鎖や停止している事例が多数見られる(リニューアルコストの課題)
- ・運用主体の継続の意義の希薄化が進んでいる.



- ・収集や編纂, デジタル化などには, 多くの予算を書けることは重要である. 劣化の防止や散逸の防止など.
- ・システムは, 欲張りすぎず, スモールスタートで実施することが必要(ハードウェア, ソフトウェアの両方)
- ・ランニングコスト及びリニューアルコストを事前に計算して置き, 無理のない運用に心がける必要がある.
- ・収集は迅速に実施し, 予算が付き次第, 編纂やデジタル化を実施, そこから十分に準備してアーカイブを構築運営する.

令和6年能登半島地震デジタルアーカイブの構築開始



令和6年能登半島地震の記録を後世に残すべく、各自然災害アーカイブの専門家が集まり、来年度中の完成を目処に令和6年能登半島地震デジタルアーカイブの構築を開始する。最終的に被災地の研究機関・自治体等に移管を予定。

発起人メンバー(随時, 研究機関, 自治体, 図書館等のメンバーを加えていきます)

○東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛

岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授 小山真紀

熊本大学大学院先端科学研究部 教授 竹内裕希子 ほか

信州大学教育学部 教授 廣内大助, 助教 内山琴絵

国立研究開発法人防災科学技術研究所防災情報研究分門 三浦伸也

栗駒山麓ジオパーク推進協議会 鈴木比奈子

災害アーカイブぎふ 荒川宏ほか

ご協力のお願ひ (震災・災害アーカイブの持続可能性に関するアンケート)

2011年東日本大震災以降、震災・災害アーカイブが各地で急速に展開しました。一方で震災から10年が経過し、構築したアーカイブの維持・管理など、継続性が課題となっています。

本アンケートでは、震災・災害アーカイブの持続的な活動を検討するため、アーカイブがおかれている現状の把握を目的としています。

アンケートはQRコードよりご回答ください。
(実施期間：2024年1月8日～12日)

<https://forms.office.com/r/zRAn2kDYTP>



【調査グループ】

岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授 小山真紀
東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛
熊本大学大学院先端科学研究部 教授 竹内裕希子 ほか
信州大学教育学部 教授 廣内大助 内山琴絵
国立研究開発法人防災科学技術研究所防災情報研究分門 三浦伸也
栗駒山麓ジオパーク推進協議会 鈴木比奈子
災害アーカイブぎふ 荒川宏 ほか

【お問い合わせ】

岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授 小山真紀 koyama.maki.v8@f.gifu-u.ac.jp

ご静聴ありがとうございました。
shibayama@irides.tohoku.ac.jp